

実践事例 小学部3・4・5年／国語

『気持ち言葉と出来事を結び付けて生活の中で友だちにクイズをだそう』

1. 子どもの実態と望む姿

- ・対象児童は、小学5年生の男子(3年生1名、4年生1名、5年生1名の計3名の学習グループ)
- ・これまでの学習で、5W1Hのうち「だれ」「どこ」「なにをしている」を使って話す、聞き取って行動するなどの学習を行ってきており、生活の中でも、「昨日、家で〇〇ゲームをしたんだよ。」などと教師に伝える姿が見られている。
- ・「楽しかったことは何ですか。」と尋ねられると、「たのしかったことは何かな。」と答える。
- ・本題材では、気持ち言葉と出来事との関係を理解し、
○気持ち言葉に対応する出来事を答えることができるようになってほしいと考えた。
- ・視覚的な手がかりを使って、選択肢の中から正答を選ぶ方法で課題解決することが得意

2. 授業のポイント

ポイント1 生活の中で、気持ち言葉に合った出来事が話せるようになるための教材の工夫

《授業で、どんな気持ち言葉を取り上げるといいのかな?》

- すでに知っている気持ち言葉を取り上げる
 - ※『うれしい』などの文字を見て読めるもの
 - ※表情カードと気持ちカードをマッチングできるもの
- 生活の中で使う頻度の高そうな気持ち言葉を取り上げる

《出来事を表す文はどんな文にするといいのかな?》

- 生活経験のある事柄
- 見知っている事柄
- 興味・関心のあるもの

以上の3つの視点で出来事を表す文①②を作成
出来事を表す文①②は、遊んだ出来事カテゴリーや無くなった出来事カテゴリーなどの同じ出来事カテゴリーで別々の出来事を表す文を作成した

《ポイント》 きちんと分かる出来事文で指導を行う(事前の実態把握)

出来事を表す文を作ったら、Aくんに尋ね
同じ出来事を表すイラストを選んでもらい
分からなかった文は、もう一度3つの視点
で再検討する

気持ち言葉	気持ち言葉に対応する出来事を表す文①	気持ち言葉に対応する出来事を表す文②
うれしい	ゲームで勝った	かけっこで1ばんになった
	プレゼントをもらった	ケーキをもらった
	自分でふっきんができた	自分でなわとびがとべた
たのしい	クレヨンしんちゃんのテレビを見た	ドラえもののえいを見た
	スライムであそんだ	レゴでしんごうきを作った
	おにごっこをした	たんけんから探しゲームをした
かなしい	雨で遠足がなくなった	バスにのれなかった
	かけっこでまけた	ゲームで負けた
	いもうとどけんかした	友だちとけんかした
おこる	友だちにおされた	ともだちにけられた
	れんらくちょうをやぶられた	おもちゃをとられた
	じゅんぱんをぬかされた	おかしをたべられた
こわい	車にぶつかりそうになった	自転車でこけそうになった
	ハチにさされそうになった	犬においかげられた
	お化けやしきに入った	教室がまっくらになる

授業構想チェックシート 内容チェック 教材の工夫①②③ P.3 参照
意欲チェック 教材の工夫④ P.6 参照

ポイント2 いろいろな出来事を表す文と気持ち言葉を結びつけるための題材計画の工夫

《どのようなステップで指導するといいのかな?》

生活場面につながるように、
『身に付ける段階と応用する段階』に分ける

身に付ける段階では

- ・出来事を表す文①を使って学習をする
- ・はじめは気持ち言葉を思い出す手がかりとなる『気持ち言葉カード』(気持ち言葉を書いた文字カード)を使い、間違えずに回答ができるようになったら、『気持ち言葉カード』なしで学習する

応用する段階では

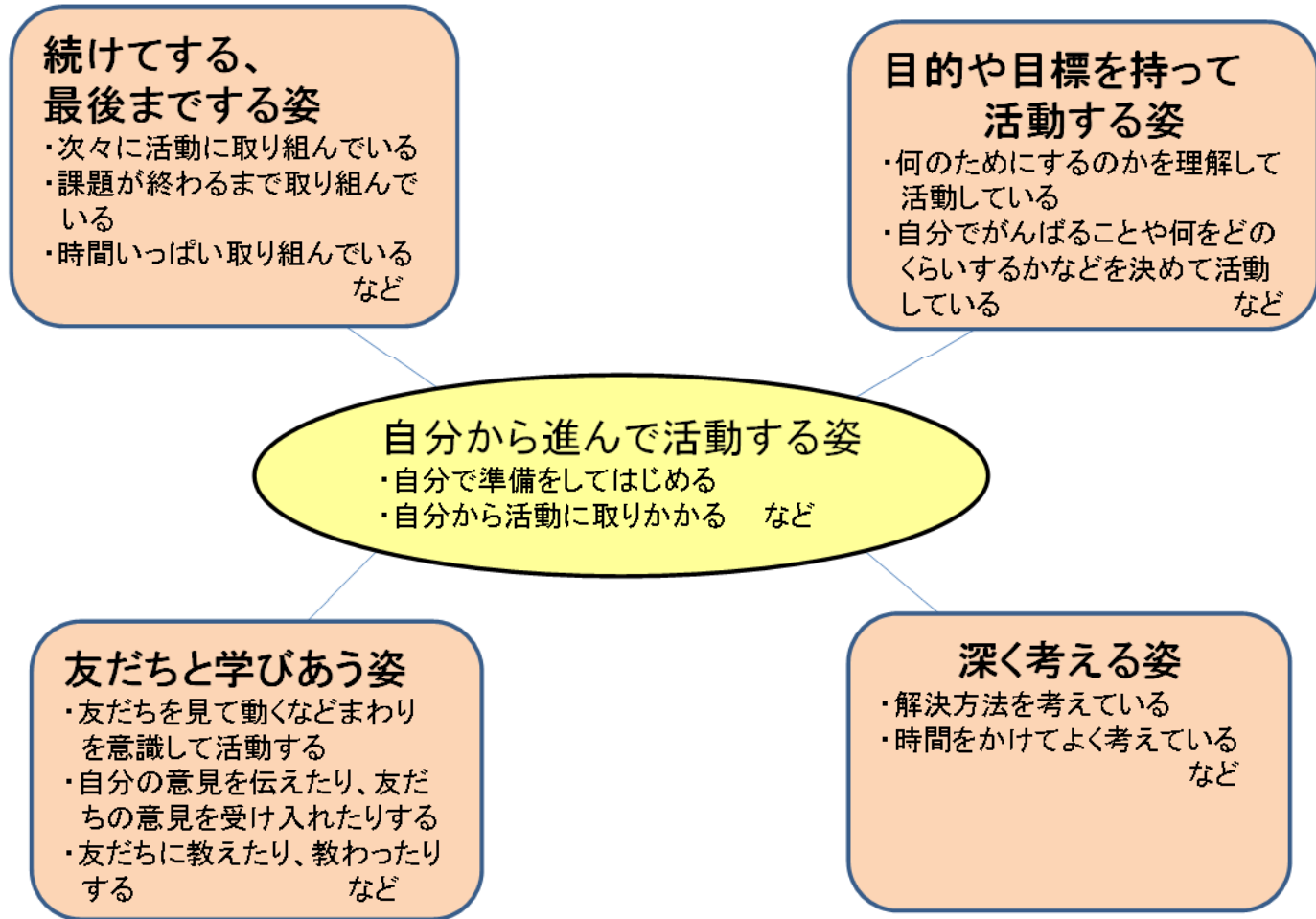
- ・出来事文②を使い、新奇の出来事文を聞いても対応する気持ち言葉が答えられるようになったか学習の成果を確認する

3時間					5時間期					1時間				
問題の出し方														
うれしい たのしい こわい	かなしい おこる	うれしい たのしい こわい	かなしい おこる	うれしい たのしい おこる	かなしい おこる	うれしい たのしい かなしい おこる こわい								
出来事を表す文①						出来事を表す文②								
気持ち言葉カードあり						気持ち言葉カードなし						気持ち言葉カードなし		
身に付ける段階												応用する段階		

《題材計画表》

授業構想チェックシート 内容チェック 題材計画の工夫③ P.3 参照
意欲チェック 題材計画の工夫⑦⑩⑫ P.6 参照

児童生徒が意欲的に取り組む姿



自分から進んで活動する姿を基盤にし、
児童生徒一人一人のより意欲的な姿が現れる